

保存版
京都市
地震
ハザードマップ
南区版
花折断層地震が起こると…

このマップは、南区に最も大きな被害をもたらすと想定されている「花折断層地震」の震度分布を示し、その被害と避難についてまとめたものです。

花折断層地震が起こると、南区ではほとんどの地域で震度6強が予想され、家屋倒壊、火災発生、人的被害、ライフラインの機能停止など、大きな被害が想定されています。

いざというときのために、自宅、学校、仕事場など普段の生活の場とその付近の震度、地域の集合場所、広域避難場所、避難所の位置と道順などを確認しておきましょう。

花折断層地震で想定される被害
(京都市第4次地震被害想定)

	南区	京都市全域
建物害	全壊棟数 7,300 棟 半壊棟数 8,500 棟	121,000 棟 111,000 棟
人的被害	死者 300 人 負傷者 3,200 人	4,100 人 53,000 人
避難者	全避難者 16,000 人 避難所内 13,000 人 避難所外 3,200 人	206,000 人 165,000 人 41,000 人

<京都市全域のライフライン被害>

電力	：停電率 約 7.2 %	(復旧まで約1週間)
上水道	：断水率 約 62.9 %	(復旧まで約1ヵ月)
下水道	：機能支障率 約 7.5 %	(復旧まで約1ヵ月)
通信 (固定電話)	：不通率 約 13.8 %	(復旧まで約1週間)
通信 (携帯電話)	：停波基地局率 約 20.0 %	(復旧まで約1週間)
都市ガス	：供給停止率 約 89.7 %	(復旧まで約1.5ヵ月)

凡例

● 広域避難場所

地震に伴う大火災等の二次災害の危険から地域住民の生命の安全を確保できる屋外の広い場所をいいます。

● 指定避難所

災害の危険性があり避難した住民等を災害の危険性がなくなるまでに必要な間滞在させ、又は災害により家に戻れなくなった住民等を一時的に滞在させるための施設をいい、小学校の体育館などが指定されています。

● 警察 ● 消防

● 官公庁 ● 国宝・世界遺産

— JR — 私鉄 --- 地下鉄

— 河川・池

— 緊急輸送路

緊急輸送路は、災害時に一般車両の通行が規制されることがあります。

● 土砂災害警戒地域

● 土砂災害特別警戒地域

防災メモ

地震のときに避難する場所を家族みんなで確認しておきましょう。

地域の集合場所

指定避難所

広域避難場所

※ 上記避難先の説明については裏面に記載しています。

震度と揺れ等の状況

震度 1～4

震度1 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がある。

震度2 屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。

震度3 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。

震度4 ほとんどの人が驚く。電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。座りの悪い置物が、倒れることがある。

震度 5弱

大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。

●耐震性の低い木造建物は、壁などに軽微なひび割れ・亀裂が入ることがある。

●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは、倒れることがある。

●亀裂や液状化、落石、かけ崩れが発生することがある。まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。

震度 5強

物につかまらないう歩くことが難しい。

●耐震性の低い鉄筋コンクリート造建物では、壁、梁、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が入ることがある。

●棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。固定していない家具が倒れることがある。

●補強されていないブロック塀が崩れることがある。

震度 6弱

立っていることが困難になる。

●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。

●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。

震度 6強

はわなと動くことができない。飛ばされることもある。

●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。

●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。

●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山の斜面の前壊が発生することがある。

震度 7

動くこともできず、飛ばされることもある。

●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。

●耐震性の低い鉄筋コンクリート造建物では、倒れるものが多くなる。

●広い地域でガス、水道、電気の供給が停止することがある。

●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山の斜面の前壊が発生することがある。

